
スマブラ合宿所！

天下

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ合宿所！

【Nコード】

N8714X

【作者名】

天下

【あらすじ】

スマブラメンバーが共同生活！？みんな楽しく暮らしている様子を小説にしました。たまにイベントをやったりします！良かったら読んでみて下さい！

作品介绍（前書き）

小説初挑戦です！

作品介绍

作者「皆さんはじめまして！作者の天下です。初めて小説を書きます。」

マリオ「みんなよろしく！っなんで俺がいるんだ？」

作者「これからスマブラメンバーでテキストに暮らしてもらいたいのです。それで代表でこの作品介绍に来てもらったのです。」

マリオ「テキストって、自由に暮らしていいのか？」

作者「うん、いいよ。」

マリオ「たまにイベントとかやったら楽しそうだな！」

作者「あ、そういうことはマスターハンドに言ってね。作者は作品中には出ないから。」

マリオ「そうなのか。じゃあ早速帰って準備してくるぜ！」
「ビュンッ！！！！」

作者「というわけで始まります！皆さん良かったら読んでください
ね！！！！」

作品介绍（後書き）

皆さんが読んで笑ってくれそうな小説にしたいと思います！よろしくお願いします！

全員集合！（前書き）

小説書くの楽しー！！

全員集合！

家に着いたマリオは早速準備していた。

マリオ「せっせ、せっせ．．．」

ルイージ「兄さん、さっきからせっせと何してるの？」

マリオ「お前には関係ないぞ。スマブラメンバーで今日から合宿が行われるんだ」

ルイージ「ええ！？なんで僕抜けてるのさ！それは兄さんの願望でしょ！僕もいくよ！」

マリオ「チツ．．．」 ルイージ「舌打ち！？」

マリオ「まあいい、ほら、お前も早く準備しろ。」

ルイージ「うん！」

（10分後）

ルイージ「準備OK！」

マリオ「よし、じゃあワープ土管でいこう！」

そしてマリオたちは合宿所についた。

マリオ「着いたぞ！」

ルイージ「ワープ土管は早いね。」

マリオ「それにしても空気がおいしいな。」

ルイージ「どうやらここは森に囲まれてるみたいだね．．．って兄さん？あれ？どこにいるの？」

マリオは合宿所となるホテルの入り口にいた。 ルイージ「いつの間にな！？」

マリオ「何しゃべってんだ？はやくいくぞ。」 ルイージ「兄さん！？話題をふつたのは兄さんなのに！ちよつとまってよ！」

2人そろってホテルに入ったらそこにはマスターハンド（以下マスター）がいた。

マスター「お！やっと来たかマリオ！」 類似「僕もいるからね！」
マリオ「ん？マスター、やっと？」
マスター「もうみんな揃ってるぞ。」
マリオ ルイージ「へ??？」
そう、マリオが家に着く前にマスターは電話で合宿のことをみんなに伝えていたのだ。
カービー「マリオ！久しぶり〜！」
フォックス「お、マリオ、遅かったじゃないか。」
リンク「さあ、お二人もこちらに来てください。」
ホテルのロビーらしきところでは、スマブラメンバーたちがそれぞれ好き勝手に遊んでいた。
マスター「さあ、これでみんなそろったな！みんな、ちょっとここに集まってくれ！」
ガヤガヤ・・・みんな話をやめ、マスターの周りに集まった。そして、マスターの説明が始まった。
マスター「さて、みんなここに来た理由は分かるな？」
ゼルダ「合宿、ですよね？」
マスター「そうだ、合宿といってもみんな自由だからな。ちなみにこのホテルはかなり広いから遊ぶところもあるぞ。今いるここはロビーだ。飯のときや何かあるときはここに集まってもらうことになる。それは覚えておいてくれ。あと、マリオとルイージ以外のみんなは自分の部屋に行ったな？荷物もそこに置いてくれ。また、他の人の部屋に行くのは自由だ。さて、もう説明することはないな。質問は無いか？」
ファルコン「何でまた合宿なんてやったんだ？」
作者「おもしろそうだから^ ^」
ファルコン「それだけかよ!? てか今作者いたよな!? 顔文字つけるな！気持ち悪んだよ」
マスター「うるさいファルコンはほっといて、ほかに質問はないか？」
ファルコンが1人「おい！」とうるさいが、だれも質問は無さそう

マスター「じゃ、みんな自由に行動してくれ。」

サムス「ねえ、マスター、明日はなるべくここにいるようにしようよ。みんなの距離が縮まりそうだし。」

スネーク「また面倒くさいことを・・・」

サムス「だまれヒゲ!!!」

スネーク「ヒゲ!?!?」

スネークはシヨックでダンボールに隠れてしまった(笑) スネ

ーク(笑)・・・じゃねえよ!!!」

マスター「そうだな、ここにテレビを持ってきてゲーム大会でもするか!」

全員「やったー!!!」

マスター「じゃ明日は朝食もふまえ、起きたらここにきてくれ。いいな?」

全員「OK!」

というわけで次回は『スマブラメンバーゲーム大会!!!』をやります!はたして、優勝は誰の手に!?

全員集合！（後書き）

どうも、作者です。この後書きではこのトークの部屋にだれかに来てもらいます！今回は・・・カービィ「みんな！よろしくね！」

マリオ「また俺か・・・」

ルイーダ「もう、つかれたよ・・・」

作者「というわけで、作者がスマブラで一番使う、そして一番好きなキャラ、カービィとキャラが立ってるマリオと緑の大人気！みんなのヒーロー！ルイーダにきても」ルイーダ「ちよつと！逆にそういうのやめてよ！」

作者「ええ・・・だってスルーしたら後からウジウジうるさいもん・・・」

マリオ「お前、引きずるんタイプだもんな。」

カービィ「そういうタイプって嫌われるよ？」

ルイーダ「しってるよ・・・」

作者「話に入るけど、小説かくの楽しいよこれ！」

カービィ「でも、3DSから投稿してるんでしょ？」

作者「そうなんだよね。家族がパソコン使うから作者はあまり使えなくて3DSから投稿してるんだけど、疲れるんだよね・・・」

マリオ「てか、よくやるうと思っただな。才能も無いのに。」

作者「うう！（傷）（涙）」

ルイーダ（復活）「いや、ふつうにしゃべってよ！」

作者「ごめんごめん、マリオの質問だけど、作者は帰宅部でなんにもやっていなくて、土日は定年退職したおじさんのごとく、ひまをもて余してるんだよね。だから何かやるうかな、と思ってたらこのサイトをみつけたんだよね。」

カービィ「ま、何もしないよりは増しだね。てか今回マスター話しすぎじゃない？」

マリオ「それはいえてるな。スマブラメンバー、ほとんど話してな

いし。」

ルイージ「あと、僕の名前がたまに類似になってるんだけど・・・」
作者「ああ、それは意図的だよ。」 ルイージ「意図的!? ええ・・・」

作者「あと、マスター話しすぎ事件は謝ります。まあ、第1作目だし? しょうがないっていうか? うん?」

カービィ「後半あげ調子話すの止めてよ! あと勝手に事件にしないで!」

作者「まあまあ、そろそろ終わりにしないと。」

マリオ「次回はゲーム大会だな。何のゲームやるんだ?」

作者「もちろんスマブラだね!」

ルイージ「僕は1勝できればいいや・・・」

3人「目標低!!!」

ルイージ「えっ? そ、そう?じゃ優勝するぞ!」

マリオ「類似だけには負けないぞ!」

カービィ「類似だけにはかつぞ!」

ルイージ「そうくると思ったよ・・・でも名前はちゃんとやって!」

作者「さて! 類似は優勝できるのか(無理)(笑) 楽しみにしてください!」

ルイージ「僕、今の一文で優勝無理だってわかつちやったよ・・・」

スマブラメンバーゲーム大会!!!

朝9時、朝食をおえたメンバー達がロビーへ集まっていた。

ピカチュウ「いよいよだね・・・」

リユカ「類似さんより上にいけたらいいな・・・」

ピット「まあ、類似くんには負けないよ普通。」

マルス「ははは 類似くんには負けるなんて有り得ないよ」

緑「作者や・・・前の後書きでお願いしたのに、もう3回も使われ

ちゃってるよ・・・なんか、新しい呼び名が増えてるし・・・」

ルイージが心底落ち込んだときに、マスターがやってきた。

マスター「よう、待たせたな。早速開催するぞ!」

ドンキー「スマブラメンバー!!!」

ガノン「・・・ゲーム大会・・・」

カービィ「開催です*!!!」

全員「わあぁー!!!」

ガノン「このくだりいるのか!？」

マスター「でも、盛り上がっただろう。よし、それじゃ開催されたことだし、奥に見えるステージをみんな見てきてくれ。」

全員がぞろぞろとステージに移動し、ステージを見るとそこにはスマブラXのキャラ選択画面が映った大型TVと何かの表があった。フォックス「マスター、この表は何だ？」

マスター「それは対戦表だ。4人ずつ対戦していき、優勝者が決まるようになってる。」

対戦表

A・マリオ スネーク ファルコン ワリオ

B ピカチュウ ガノン ネス カービィ
C レッド(ポケモントレーナー) アイク ピット リンク
D サムス ゼルダ ピーチ ポポ
E ファルコ フォックス ウルフ ナナ
F ロボット メタナイト ルイーダ ウォッチ
G トウリンク シーク マルス リュカ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8714x/>

スマブラ合宿所！

2011年10月28日13時33分発行